

令和4年度第2回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 令和4年10月28日（金曜日） 15時30分～16時30分

開催場所 立川市役所205会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、栗原寛（教育長）、石本一弘（教育長職務代理者）、伊藤憲春（教育委員）、嶋田敦子（教育委員）、小林章子（教育委員）
[事務局] 大塚正也（総合政策部長）、浅見知明（保健医療担当部長）、齋藤真志（教育部長）、渡貫泰央（企画政策課長）、田村信行（健康づくり担当課長）、小林直弘（教育総務課長）、佐藤達哉（指導課長）、寺田良太（主任指導主事）、片山伸哉（統括指導主事）、芳井伸彦（指導主事）

議事日程 1. 議題

- (1) 新型コロナウイルスワクチン接種について
 - (2) 令和4年度全国学力・学習状況調査における分析結果について
 - (3) 令和4年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について
2. その他

議事録

（市長）

定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第2回立川市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議は、議題が3件ございます。議事進行につきまして、御協力をお願いいたします。

1. 議題

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種について

（市長）

それではまず、次第の1議題(1)「新型コロナウイルスワクチン接種について」です。健康づくり担当課長から説明をいたします。

（健康づくり担当課長）

健康づくり担当課長の田村と申します。資料をもとに御説明いたします。

「新型コロナウイルスワクチン接種について」という資料を御覧ください。

1枚目には、現在の接種状況を記載してございます。上段の概要に、主な点を抜粋して書いていまして、下段には、2つの表で、年代別などの接種率の数値を記載してございます。

まず、概要に書いてある1番目、初回接種の状況でございます。こちらは1、2回目接種の数値でございます。

中段の表の、下から3段目、立川市の状況がでございます。この接種率は、全市民人口を対象に、何%の方の接種が済んだかということを表しています。立川市では、18万5,000人ほどの人口ですが、全市民の約8割の方は、1回目、2回目の接種を終えている状

況でございます。なお、3回目を追加接種と言いますが、こちらは全市民の65.3%の方が接種を終えている状況でございます。

次に、④の小児接種の御説明をしますが、小児接種につきましては、真ん中の表の下から4段目にあります5歳から11歳という欄でございます。こちらは、令和4年の3月から開始しましたが、全国的な傾向と同様ですが、該当年齢の約2割の方が、本市で言いますと、1回目22.8%、2回目20.2%という、約2割の方が、1、2回目のセットの初回接種を終えている状況でございます。

また、1ページ目の下の欄には4回目の実績が書いてございます。4回目につきましては、年齢的には、60歳以上の方が対象となっております。こちらの60歳以上の方だけを見ました4回目の接種実績は、一番下にある数字、82.9%という状況でございます。

このような状況でして、先ほど、概要で言いました、全市民の8割の方が、1、2回接種を終わっている、小児の方の2割の方が、同じく初回接種を終わっているという傾向は、全国的にも立川市においても同じような状況でございます。

また、全体的には、高齢の方が接種している割合が多く、全国的な傾向と同じで、本市でも、若者世代の方が少ないということで、現在でも、正しい情報を周知し、接種に努めている状況でございます。

状況についての概略は以上でございます。

次に、裏面を御覧ください。こちらは、接種を行っている中でも、年代別ですとか、分類ができますので、主立った分類をもとに、現在の状況をお話しするものでございます。

まず、上段、2番には、オミクロン株対応ワクチン接種とあります。接種自体は、先ほど言いました、既に本市でも1年半前、令和3年の5月から行っているところでございます。1回目、2回目を行って、3回目、中には高齢者の方は4回目を行っている状況でございます。そういった中で、ウイルスというものは、少しずつ形を変えており、現在の流行しているものは、オミクロン株という、変異株でございます。そうした状況の中で、国では、初回の2回のセットの接種を終えた全員に、令和4年中に、この新しいオミクロン株対応ワクチン接種を受けられるように、本市を含めた自治体では、準備を進めるということで、今年10月7日、国から正式な通知をいただいたところでございます。それに伴いまして、本市でも準備を進めておりました。資料をもとに御説明しますと、(2)の接種対象者は、初回接種を終了した12歳以上全ての方が、最後の接種から、5か経過した人に、オミクロン株対応ワクチンを接種するというものでございます。また、下に括弧で書いてありますが、年内に新しいワクチンの接種を終えるということで、国では、接種間隔の検討をしていることが、同時に言われていました。このことにつきましては、資料作成は10日ほど前に行ったんですが、その後、10月20日の木曜日になります。国の専門家分科会において、5か月を3か月に短縮するということが、この資料作成の後に正式に決定されました。

次に(3)でございます。ワクチンについては、オミクロン株に対応する、また、従来流行していたものにも対応するというので、2価ワクチンと呼んでいるんですが、この接種を進めるというものでございます。BA.1とか、BA.4-5と言われているもの

で、B A. 4 - 5 が最新の流行している変異株でございます。

(4)でございますが、そういった最新の流行株に対応するために、本市におきましても、国から新しい対応ワクチンが供給される、始まったという状況も踏まえまして、実際には、B A. 1 対応を9月28日から接種を開始し、国からの新しいワクチンの供給が伝えられ、それが実際に始まったことを確認できるということで、10月26日、おとといの水曜日になりますが、このときから、新たなB A. 4 - 5 ワクチンに切り替えて、接種を進めているものでございます。

次に、接種場所でございますが、本市におきましては、かかりつけ医など身近なところで、安心して接種ができるよう、医師会と協力しまして、市内の医療機関で接種ができることを基本として進めています。また、接種希望者が多かったり、さらに接種を加速化しなければいけないという状況に応じて、補完的に集団接種も実施しているところでございます。現在、約60か所の医療機関で接種をしていると同時に、ここに書いてあります、集団接種でいいますと、本日と明日につきましては、市内のホテルの会場で、集団接種も行っているところでございます。今後につきましても、予約の状況などを踏まえながら、医療機関の接種とともに集団接種の実施も検討し、決まり次第、広報紙等で周知をしていく予定でございます。

次に、大きな3番、小児接種でございます。こちらは、今年、令和4年3月から開始したものでございます。現在の状況は、追加接種を主に行っているところでございます。国からは、9月6日から、2回の接種の後、5か月経過者に追加接種を行うという通知を受けて、これに基づいて接種を行っているものでございます。

対象者は、5歳以上11歳以下で、本市におきましては、約1万人の対象者がいらっしゃいます。

(3)の接種間隔、1回目と2回目は3週間を空けて、1、2回セットで行うというのが初回接種でございます。今、主に行っている3回目につきましては、2回目接種から5か月以上経過の方に、案内を差し上げて、接種を行っている状況でございます。こちらの接種につきましては、小児科医などを中心に、市内の約10か所の医療機関で、接種を行っているところでございます。

次に、大きな4番、乳幼児接種でございます。こちら資料を作った時点の状況を記載してございます。10月7日の厚生労働省の分科会におきまして、生後6か月以上4歳以下の方を予防接種上の臨時接種とするということが決まりました。その時点では、今後、接種が開始されるよう、連絡があるという旨のを受けてございました。実際には、資料作成の後、10月24日月曜日、今週の月曜日からですが、接種が可能ということになりまして、早い自治体では、既に接種を始めているところがあると聞いております。

(2)につきましては、接種対象者は、先ほど言いました生後6か月から4歳以下ということで、本市におきましては、約6,000名の方が対象になります。

この接種方法、(3)でございますが、小さなお子さんの場合は、ワクチンの量も少ないということで、3回を一つの単位で、初回接種を行うということで、国は定めてございます。まず、1回目接種してから20日の間隔、これは3週間に当たりますが、3週間後に2回目を接種する。2回目を終了してから55日、こちらは8週間に当たりますが、8

週間後に3回目を打つ、このように、トータルしますと、足かけ3か月をかけて、乳幼児の接種を行うということが示されてございます。この乳幼児接種、本市ではまだ始めていませんが、早急に準備をしているところで、これから接種券の発送や接種を開始する予定としておりまして、接種場所につきましても、皆様が安心できるよう、市内の小児科の医療機関と、今、詳細を調整しているところでございます。

資料をもとにした説明は以上でございます。

(市長)

ただいまの御説明、どなたか御質問等がございますか。

ないですね。よろしいですね。

それでは、次に、いきます。

(2)「令和4年度、全国学力・学習状況調査における分析結果について」に移ります。事務局の指導課長から説明をいたします。

(指導課長)

それでは、お手元の資料に沿って御説明させていただきます。分量がかなり多くなっておりますが、分析結果の報告書、授業改善のポイントと書かれているこちらの資料に基づいて、御説明をさせていただきます。

今年4月に、国語、算数・数学、理科の3教科が実施されました。毎年実施されている、国語と算数・数学に加えて、今回は4年ぶり4回目となる理科の問題も出題されております。それで、本市の状況につきまして、担当指導主事芳井より説明させていただきます。

(指導課指導主事)

私から令和4年度全国学力・学習状況調査における分析結果報告書授業改善のポイントについてお伝えさせていただきます。

本資料は、小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒を対象に、本年4月19日に行われた学力調査の結果を分析し、授業改善のポイントについてまとめた資料となります。

内容の構成についてご説明いたしますので、1枚おめくりいただいた1ページにある目次のほうを御覧ください。

最初に、立川市小・中学校における授業改善の取組をまとめてございます。次に、小学校の国語、算数、理科、中学校の国語、数学、理科について、それぞれ、調査結果の概要、学習指導要領の内容、観点別の結果等、設問ごとの正答率、授業改善に向けて、児童・生徒質問紙の回答と、平均正答率との関連の項目を設定し、結果等を報告させていただきます。それに続きまして、学習に関する調査結果、生活習慣に関する調査結果の概要をまとめ、最後に、学校質問紙調査の結果と、探究的な学習における評価と横断的な取組の充実に向けての項目を設定してございます。

各教科はそれぞれ学校種別、教科別4ページございます。昨年度から構成を変更し、後半2ページには、授業改善に向けたアイデアと、児童・生徒質問紙の回答のうち、「その教科の勉強は好きですか」と、「その教科の授業の内容はよく分かりますか」をお示ししております。「授業の内容は分かりますか」に対して、児童・生徒がどのように回答しているのかという実態と、本資料にある様々なデータとの関連を分析することが、授業

改善につながる指導の工夫等につながると考えております。

それでは、資料のほう、7ページを御覧ください。

小学校国語です。小学校国語の平均正答率は、昨年比では横ばいとなっております。

8ページの表を御覧ください。

太線で枠が囲まれている部分については、無回答率が10%を上回る設問になっております。小学校国語は、小学校3教科の中で、無回答率が10%を上回る設問が最も多くございました。

続きまして、11ページを御覧ください。

小学校算数になります。立川市の平均正答率は全国平均よりプラス0.8ポイントでした。

続きまして、15ページを御覧ください。

小学校理科です。平均正答率は全国平均との差がプラス0.7ポイントでした。グラフを見ていただきますとA B C D層のグラフがございしますが、C層D層の割合が全国平均より多い状況がございます。

小学校に関しましては、以上です。

続いて、中学校です。

中学校は3教科とも平均正答率については、全国平均を上回っております。

19ページを御覧ください。

中学校国語は、前年度比プラスの3ポイントとなります。全国平均より1ポイント上回っております。

23ページを御覧ください。

中学校数学です。中学校数学は、前年度比マイナスの7ポイントとなります。

横の24ページ、表を御覧ください。

中学校数学、中学校の3教科の中で、無回答率が10%上回る設問が最も多くございました。

続きまして、27ページを御覧ください。

中学校理科。平均正答率は全国平均との差がプラス0.7ポイントでした。グラフのほう見ていただきますと、A層の割合が全国平均より低く、D層の割合が全国平均より多いという状況がございます。

中学校は以上です。

続きまして、31ページを御覧ください。

児童・生徒質問紙のうち、教科の学習に関する内容をまとめてございます。今年度新設のページとなります。

続きまして、一枚おめくりいただき33ページから御覧ください。児童・生徒質問紙のうち、学習活動への取組方等に関する設問と、正答率との相関をまとめてございます。どの設問につきましても、肯定的な回答の児童・生徒は、正答率が高い傾向がございました。

少し飛ばしまして、39ページを御覧ください。

学校質問紙の回答、それから、学校質問紙と児童・生徒質問紙との比較の順でお示し

をしております。本資料の冒頭にあるように、学校では、様々な授業改善の取組が行われております。しかし、この辺りのページを見ていただきますと、学校の回答と、児童・生徒の回答との間には差が見受けられる状況がございます。今後は、その差を埋めていくことの取組の一つとして、児童・生徒自身が自分は何ができるようになったのかをしっかりと認識できるようにするという取組が大切だろうと捉えております。

また、教科の学びで習得したことを活用できる場を学校の教育の中で設定することも有効であろうと考えております。単元や題材の学習、それから定期考査の終了をもって完結ということではなく、教科の学習の文脈で身につけた資質・能力を学校の学びの中で発揮できるようにしていくことが大切であろうと捉えており、それを可能とするのが、探究的な学習というふうに言われています。そのことにつきまして、考察最後にまとめさせていただきます。

42ページを御覧ください。このページの表につきましては、これまでに受けた授業についてということで、既に出ている質問ではありますが、改めて掲載させていただいております。A層とC層の児童・生徒の回答の割合を表にまとめてございます。多くの回答で、A層の児童・生徒ほど、肯定的な回答の割合が高くなっております。網かけ部分は80を超えている数値の部分になります。これまで受けた授業の記載、以下の設問は、教師の指導の事項や探究的な学習の過程において設定される児童・生徒の学習活動でもある内容が多くございます。学習指導要領、各答申、授業改善に係る報告等で、習得・活用・探究この3つの学習の学びの過程の充実が示されており、学校で身に付けた資質・能力を発揮する場としての探究的な学びの一層の充実が求められています。本市においては、立川市民科と総合的な学習の時間が主な探究的な学びの場に当たるかと存じます。市内全小・中学校において、教育課程特例校としての取組が始まったこの機会に、立川市民科の探究的な学習の過程における活動の充実について、教科等横断的に取組み、児童・生徒が身に付けた力を存分に発揮できるようにしていくことが今後重要であると考えます。それらが今後の授業改善であったり、学力向上のポイントになると考えられます。

私からは以上です。

(市長)

これまでの説明について、御質問等がございますでしょうか。

石本委員。

(石本委員)

まず、お尋ねしたいんですけど、42ページの説明のときに、A層とC層の比較ということで御説明ありましたけど、今これ全体のパーセンテージ25%で、4分の1ずつということ、その中の、どうしてそのA層とC層という比較をされているのかという御説明をいただけますでしょうか。

(市長)

指導主事。

(指導課指導主事)

A層C層に分けた比較の理由について回答させていただきます。

D層に関しましては、様々な個別の要因があるか考えられましたので、半分に分けた中での上位のA層とC層が適切ではないかと考え、A層C層を出しております。

以上です。

(市長)

石本委員。

(石本委員)

ありがとうございました。

比較がしやすいように、A層とC層という使い方をしたっていう理解でよろしいでしょうか。この資料を私拝見して、3ページ4ページ、それから、5ページを見て、まず、このグラフを見て小学校の先生頑張ってるなっていう、実は率直な感想を抱きました。中学校は当然ですけど、全部専科の教師がずっと授業をされていますが、小学校はそうではないですよね。だんだん今、専科制が導入されていますけども、現段階ではまだ子どもたちは専科の先生がずっと算数を、理科を、国語を見てきたわけではないです。そうであるのに、このグラフを見る限り、本当に小学校の先生たちは、私は、すごく丁寧にポイントを押さえたすばらしい御指導をされてきたんだろうなという実感を受けました。自分は中学校籍なので、余計それを感じましたので、ここで一言お伝えしたいなというふうに思ってお伝えしました。

(市長)

ほかにございますか。

伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございました。

とても本当にすばらしい資料を出していただいたなと思っております。特に、昨年と比べまして、円グラフをよく使っていただいているような状況で、とても分かりやすい表現になったという気がいたします。

ちょっとお聞きしたいのが2点ばかりあります。

1点は、小学校の国語、算数、理科、それから中学校の国語までは、最大値が上のほうに、12問とか、そういうところにまとまった形になっています。昔よく立川市の場合には、下のほうにもう一つ山があった、フタコブラクダなんていうのがあったんですけど、今はとてもきれいな形になっていると思うんですけども、中学校の数学と、それから理科、ここだけは、いわゆる正規分布に近いような、中央値と最大値が一致するような形になってきているのは、その辺は理由は何かあるんでしょうかということが1点。もう一つは、食事、これは生活の方ですけども、朝食をとってくる生活習慣のところ、平成31年度から令和3年度にかけて、それからまた、4年度にかけて、やはり朝食を食べないという方が増えているという状況は、やっぱりこれはコロナのせいなんですか、何か分析をされているようなら教えていただきたい、その2点ばかりお伺いしたいと思います。

(市長)

2つありましたけれども、今の質問は。

佐藤指導課長。

(指導課長)

丁寧に見ていただいてありがとうございます。

中学の数学、理科の最初の質問についてお答えさせていただきます。

主に理科のほうを中心にお答えさせていただければと思うんですが、今回、全国の学力テスト中学理科の正答率が全国平均で49.7%と、正答率を5割を切っております。そういう部分では、国の担当者のほうも、いわゆる多くの問題で、教科書に載っていないような場面を設定した、そういった問題をつくっていると。いわゆる、高めの球を投げた、それが正答率の低さにつながっているのではないかという分析はされております。そういったことから、この正規分布のような真ん中に山がきているのは、その正答率が低かったということが、一つ理由として、考えられるのではないかと思います。

また、2つ目の質問のコロナ禍、食事についての分析ですが、まだ指導課としても分析しきれてないところございます。いただいた御指摘をもとに、丁寧に児童・生徒の様子を見守ってまいりたいと思います。

ありがとうございます。

(市長)

ほかに御質問は。嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございます。また、丁寧に、とても詳しく分かりやすい資料をつくっていただきまして、ありがとうございます。

資料を見ていますとやはり、好きこそ物の上手なれなんだなというのがよく分かって、本当に楽しい授業、分かったと思ってもらえるような授業をするというのが、とても大事なことだなというふうに思いました。

その中で、やはり立川市の子どもたちは書くことが少し苦手なのかなというふうに思いましたけれども、今年度、何校か学校訪問に伺わせていただいて、その中では学校独自に、いろいろな工夫をしてくださっていて、新聞記事の感想を書いたりだとか、日記を書いたり、ノートをちゃんと手書きで書いたりというところも、学校ごとにとっても工夫はしてくださっているので、これは成果が上がったよというような活動があればぜひ、他の学校にも共有していただきたいなというふうに思います。

また、グループ活動なども各学校やってくださっているんですが、やはり形式的に、ただ自分の書いたものを見せておしまいというようなグループ活動されているクラスもあれば、大変生き生きと、子どもたちが自由に意見を出し合って、ああでもない、こうでもない議論しているような様子も見ることができました。その生き生きとした議論というのはどういうふうにしたらできるのかなといったところも、先生のちょっとした声かけだったり、問いかけだったりということが、関わっているのだと思いますので、そこら辺も、ぜひ先生方で、学校問わず、こういうやり方がいいですよということを共有していただきたいなと思います。また、今回このように丁寧に分析をしてくださりましたので、この授業改善のポイントもぜひ有効活用していただきたいなと思っています。

すみません、長いですが、35ページのところに、「地域や社会をよくするために何をす

べきかを考えることがありますか」というところで、肯定的な回答が減っているということですが、やはり、このコロナ禍の影響で、本来ならば地域で活躍できたはずの子どもたちが、できなかったということも、多々あつただろうと思います。地域のほうも、ようやくお祭りが再開したりですとか、だんだんと動き始めていると思います。立川市民科のほうも、これまで、当初やろうと思っていたことができなかつたり、思うように地域に出て行けなかつたりということがあつたと思いますので、今後に期待をしたいと思います。

それから毎年、朝食のことを申し上げているので、先ほど伊藤委員からもありましたけれども、やはり、朝食を食べない、成長期の子どもが、長い間空腹でいるというのが、脳にとっても、成長にとっても、体を動かすということにとってもマイナスだと思いますので、そこら辺の、科学的にこういう悪いことがあるんだよということを、子どもにも保護者にも教えていただけたらなというふうに思っています。

どうもありがとうございました。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

この内容に入る前に、ちょっとお聞きしたいんですけれども、学校ごとの結果というのは、各学校にどのように伝えられているのでしょうか。個々のその学校だけなのか、市全体の他の学校の様子もわかるのか。学校訪問をしまして、学力調査の結果を資料として見せていただくことがあるんですね。それは、全体の中でどの位置にあるということを理解するためにはいいんでしょうけれども、この学力調査が始まったころに、結果を公表するのはどうなのかという議論があつたかと思うんですね。過度の競争を招くとか、序列化をするとか、そういう問題点が提起されていまして。今回、石川県で事前にそのテストのための準備をしている、授業中に過去問を解くというような授業をやっていたりという、それが表沙汰になってきましたけれども、立川市では、各学校に対して、どのように結果を示しているのか、その辺をまず、お聞きしたいと思います。

(市長)

指導主事。

(指導課指導主事)

調査結果の通知について私から説明させていただきます。文部科学省から各学校のID等が、各学校に送付されます。各学校は、文部科学省のウェブサイトアクセスをして、自分の学校の結果のみ取得できます。教育委員会は教育委員会のID等で各学校のデータを取得できますが、その配布は行っておりません。各学校が市内でどの程度の位なのかとかを把握できるような情報提供は行っておりません。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

ありがとうございます。とてもいい対応だと思います。安心いたしました。

それから、まだ内容には入りませんが、この前にあった教育委員会定例会では、とても、文字のいっぱいある難しい資料を見せていただきましたが、今回はそれに比べて、くるりんが入っていて、くるりんが一生懸命お勉強しているところとか、いいねとかやってる、そういうイラストが入っているので、難しい内容でも、すごく心が和みました。いいアイデアだと思いました。

それで、中身ですけれども、私が一番興味というか、関心を持ったのは、先生の意識と、児童・生徒の意識の違いというところで、後半のほうですね、40ページからですかね、「学校質問調査と児童・生徒意識調査の比較」というところで、まず、自己肯定感は中学校も小学校も、先生方は、児童・生徒を褒めて、自己肯定感を認め、自己肯定感を育てているというふうに思っているんですけども、児童・生徒の回答を見ると、「どちらかといえば当てはまらない」とか「当てはまらない」というのが出てきます。そのコメントにも書いてありますけれども、発達段階に合わせて、丁寧に伝えることが求められると。褒めるというのは簡単なようでとても難しいと思いますが、この違いというのはどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか、ということが1点。

またその次のところも、次の41ページにも、やっぱりその児童・生徒とのギャップというのが、グラフであらわれています。これも「自分から課題解決に向けて取り組んでいましたか」という問いで、先生にしてみたら、みんな頑張っていて取り組んでいるというふうに見ていらっしゃるけれども、本人たちは、そうでもないところが先生よりも多いという数字になっています。やはり自分から学ぶ意欲を持つという指導、どのような、指導のポイントがあるのか、その辺もお聞きしたいと思います

(市長)

質問は、2問あるようでございます。

指導主事。

(指導課指導主事)

私から回答させていただきます。

授業の観察をしているときにも感じるのですが、先生方は、授業の折々に、子どもたちに声をかけています。「すごくいいね」であったり、「今の発言はとてもよかったよ」と伝えてはいますが、それを褒められたと感じているかどうか、その子に言葉が届いているかどうか、その子の中に残っているかということが、課題としてあるのかなということがございます。まなざしや立ち位置など、いろいろな要因があると思うので、先生方同士がお互いに授業を見合いながら、届いていたか届いていなかったというところを考えていくと、子どもの意識と大人の意識が合ってくるのではないかなというふうに思っております。

それから、主体的に子どもたちが自ら学ぶということ、子どもたち自身が自ら学ぶということは、放任とは違うところがございます。学習の計画があり、流れがある中で、子どもの学びとして、子どもが問いを持てるような働きかけをしていくという授業の工夫がすごく大事になってくると思います。子どもたちが自ら疑問や問いをもてるようにする働きかけや、授業準備をしていくということが、この数値の改善になるであろうと思われま。探究的な学びに関しては、そこに強みがあるのかと思いますので、その充

実が図られるであろうと考えております。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

ありがとうございます。

そのようなアドバイスをぜひ先生方に伝えていただけたらいいなというふうに思っております。

それから、39ページなんですけれども、今回の結果を、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたかという問いに対して、小学校、中学校、ありますけれども、ほとんど行わなかったという部分が中学校の方で特に33%ということなんです。これは教育委員会の方針として、どのように伝えていらっしゃるのか教えてください。

(市長)

指導主事。

(指導課指導主事)

学力調査の結果の公表や説明について回答させていただきます。学力調査の結果だけを取り上げて、伝えると捉えられた回答になったかもしれないなと思っております。中学校に関しては定期考査等、こういう形で評価をしますと最初に説明をして、結果こういう形になりましたと説明を行っていると思っております。全国学習・学力調査の結果だけをそこでお示しをするという形ではなく、学習の評価を全国学力・学習状況調査の結果も含めてお伝えをしていると私自身は捉えております。

冒頭にある全学校の取組に、授業改善推進プランの作成があり、全校必ず全国学力・学習状況調査の分析を行い、そのプランに反映させることを市の方針として示しています。プランはホームページに掲載しますが、分析の内容そのものをホームページに載せるかどうかは学校のほうで御判断いただいています。このように調査自体は活用されており、保護者、地域の方への周知は学校日より、保護者会等で行われていると捉えております。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

ありがとうございます。

ではこの結果で、このグラフで判断、受け止める印象と、実際は違うというふうに考えて、何らかの形で周知されているというふうに思っているのでしょうか。

ありがとうございました。

(市長)

石本委員。

(石本委員)

39ページの「義務教育9年間の学びや発達の連続性を踏まえた取組」のところで、上と下と二段に分かれてますけれども、上を見ると、前年度までに、近隣等の小・中学校で、教育課程の接続や教科に関する共通の目的設定と、要するに、近隣の学校と情報交換しながら、授業改善しているのかという、多分そういうことなんだと思うんですけども、上の段を見る限り、下の段は、自校で取り組んでいること、要するに、こういうことをもっとこういうふうにしていこうよという、それは、どの学校も積極的に行われているんだけど、例えば中学校が、お隣の中学校とか、小学校が、近くの小学校と連携をしながら、授業改善というそういう視点は多分欠けているのかな。すいません、このデータを私はそういう読み取ってしまっただけなので、その読み方が正しいかどうかわからないんですけど、この点については、いかがでしょうか。

(市長)

指導主事

(指導課指導主事)

私から回答させていただきたいと思います。

学力向上担当者の部会がございます。先ほど申し上げた授業改善推進プランの作成に当たって、実際前年度に作成したものと前年度の分析の資料を使って、年度当初、中学校区での協議は行っております。中学校区での活用は担当者間では必ず行われております。10月頃の部会では、夏に、その年の調査の分析をして作成したプランと、分析資料につきましては、その後の学力向上の担当者会で共有します。共通認識は4月の部会でももてるようにしてきております。担当者間では行われていることが、校内で浸透していない可能性があると考えております。

以上です。

(市長)

石本委員。

(石本委員)

ありがとうございました。

自校の分析で行う授業改善は取り組みやすいんだけど、他校と連携してというのは、当然結果は自校の結果が示されるものですから、意識を持って改革を進めていくのに時間がかかるだろうなというふうに思いました。

隣の学校質問用紙とそれから児童・生徒への意識調査、ああそうなんだって思いましたが、小学校も中学校もそうなんですけど、ざっくり言っちゃうとですけど、先生たちは、頑張っているぞというけど、子どもたちは、3や4が、これだけ出ていますよということなんだというふうに思います。これは下のグラフ、学習したことの意義や価値、実感していますかということについてもそうですし、41ページにも、やっぱりそんなことが言えるのかなって。すいません、深くこれ読み取れているわけではないので、いただいて十分吟味しないまま発言して申し訳ないんですけど、先生方の思い、こういう気持ちで、授業改善取り組んでいて、こういうふうに変わっているはずだという思いも、当然、それは授業している先生方としては当然のことなので、それはプライドとしてぜひ持っていただきたい、今後もそうしていただきたいんですけども、子どもたち

が、こう答えているというのは、その子どもたち自身の実感としてということなんだと思うので、この辺の実態のすり合わせといいますか、もう一言言っちゃえば授業改善ということになっていくんだと思うので、ぜひこれ十分読み取って、現場で活用すると本当にすごいアイテムにもなるなというふうに思いました。ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

嶋田委員。

(嶋田委員)

すみません、40ページの、「自分には、よいところがあると思いますか」という生徒に対する質問については、先生からの影響だけじゃなくて、やはり家庭ですとか、SNSを見て自分は駄目だって思い込んでしまったりとか、そういう様々な要因が関わっていると思いますので、先生の声かけだけじゃなくて、ほかにいろんな要因があるのかなというところも、気をつけて見ていていただきたいなと思います。

(市長)

よろしいですか。

では次に、3の「令和4年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について」移ります。事務局の指導課長から説明をいたします。

(指導課長)

それでは、「令和4年度立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」の御報告をさせていただきます。

コロナ禍ということもあり、令和2年度、3年度は、オンラインの実施で対面での実施ができなかったのですが、今年度、平成31年度から3年ぶりに対面で行うことができました。

今回は、とにかく英語に、英語、英語、英語という2日間で、純粹に英語に触れてる時間はおよそ8時間、その他の時間も含めると10時間以上は、英語に触れていたのではないかなと思います。詳細については、主任指導主事寺田のほうから説明させていただきます。

(主任指導主事)

では、私から、大町市との交流、中学生サミットについて御報告させていただきます。

平成27年度からスタートしましたサミットも、今年で第8回を迎えました。当日は7月の16、17日なんですけれども、事前学習、事後学習も行っております。

事前学習は6月に行いました。当日、全て英語で実施するということでしたので、担当の指導主事が中学校の英語教員でしたので、その指導主事が、全て英語で、授業形式で、事前学習を行いました。市内の中学生だけだったんですけども、当日初対面の生徒がほとんどでした。最初は緊張した様子でしたが、次第に場の雰囲気も慣れてきまして、たくさん発言するような生徒も増えてきました。写真の様子になります。交流対話で進んでいきました。

参加生徒は興味のあるSDGsの6つのゴールでグループ分けされて、当日まで、調べ学習や発表、そういった準備を行っておりました。

7月16日1日目です。当日は、全国的な悪天候の状況だったんですけども、ちょうど大町市の生徒が来たときだけ雨が上がりまして、外でお迎えしました。生徒たちは中で待機させて、中でお迎えしました。

開会式です。英語でというところの意識があったのか、当日生徒たちも英語での挨拶等も出てきました。

コロナ禍ではありましたが、一緒に昼食を囲みました。

その後すぐ、学習に入りました。TGG、現在青海にあります。来年の1月に、グリーンズプリングスにもオープンする東京グローバルゲートウェイから、講師をお招きしての学習を進めました。TGGは全て英語での授業になります。エージェントと呼ばれるんですけども、彼ら全員は日本語を理解した上で、全て英語で一切日本語は話しません。そういった状況下で子どもたちは英語づけの2日間を送っております。実際アクティビティ、グループ活動を進めて学習を進めておりました。本当に午後1時から夕方6時、そしてその後のグループ学習も全て英語で実施しております。

2日目は、グリーンズプリングスを少しフィールドワークしました。グリーンズプリングスの二階にある施設、様々ありまして、SDGsを見つけるような活動も行っております。ここでもTGGのエージェントと英語でコミュニケーションを図っておりました。

発表会自体もTGGのエージェントが中心になりまして、様々なジェスチャー、表現、全て英語で指導をして子どもたちが準備を進めておりました。英語によるSDGsについての発表です。様々な趣向を凝らしたプレゼンテーションになりました。

この発表を終えまして、TGGから修了証もいただき、最後記念撮影で終わりました。この後なんですけれども、大町の生徒が一番楽しみにしていた、ららぽーとへの、見学というかお買物ですね、そういったところも進めて2日間無事に終えることができました。

手短ですけども、私から以上となります。

(市長)

ただいまのことにつきまして、御意見御質問等はございますでしょうか。

嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございました。

本当に全て英語というのはなかなかできないことなので、本当にこの子どもたちすごい体験ができたなと思います。本当にありがとうございます。

この大町の子どもたちの宿泊はどこでしたか。

(市長)

主任指導主事。

(主任指導主事)

本年度は、パレスホテル立川で宿泊して、立川市の生徒も泊まりました。

(市長)

嶋田委員。

(嶋田委員)

本当に、3年ぶりにこうやって、実際に会うことができ、本当にいい体験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。

(市長)

ほかにございましょうか。小林委員。

(小林委員)

本当に楽しそうで、私も参加したいなという気持ちになりました。それで、ここに参加している子どもたちなんですけれども、全て英語で対応できるという能力を持っている人たちなんでしょうか。普通というか、この子たち以外の子が参加した場合にはどういう状況になるんでしょうか。

(市長)

主任指導主事。

(主任指導主事)

このTGGのプログラム自体が全て中学生の1年生程度の英語でプログラムを進められる技術を持っておりますので、そういった講師をお招きしての授業なので、どの子にも活動可能な学習になっております。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

いい施設ができたと思います。たくさん子どもたち、ぜひここに参加してもらいたいですし、大町からも、たくさんのいろいろな人たち、子どもたちに来てもらいたいなというふうに思いました。できたら機会を広げるといいますか、限られた人たちだけではなく、その成果がみんなに広まるような何か方策を考えていただけたらいいかなというふうに思います。

(市長)

ほかにございますか。

この件につきましては、これで終了とさせていただきます。

2. その他

(市長)

次に、その他。続きまして、次第の2であります「その他」に移ります。事務局の企画政策課長から説明をお願いします。

(企画政策課長)

企画政策課長です。

本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様にご確認をいただきまして、市ホームページ、市役所3階の市政情報コーナーで公開いたします。

次回の総合教育会議についてでございますが、令和5年1月13日金曜日を予定としてございます。時間は15時半からでございます。

部屋につきましては、210会議室にして開催を予定をしているところでございます。

説明は以上となります。

(市長)

ただいまの連絡でございますが、御発言の方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

それでは特にならぬでございますので、以上で、令和4年度第2回立川市総合教育会議を閉会といたします。

大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

——了——